すなお

令和２年１月号

おやのことば

小人罪あるとは
思われまい。
為すとも思われん。
小人十五才まで
親の理で治まる。

明治二八年三月十二日

会　長

新年明けましておめでとうございます。本年も勇んでつとめさせて頂きましょう。

今年はいろんな変化のある年になると思います。しかし、新しい事や変化があると、人は戸惑います。例年通りとか昨年と一緒、、、。なんていうのがとても安心でほっとすると思います。

でも、よく考えてみると私達の身体は毎日少しずつ変化していて、今日の自分と明日の自分は決して同じではなく、ほんの少しずつでも必ず変わっています。この身体の変化の意味を考えれば神様は同じ所で止まっていることを願っているのではなく、少しずつでも前進することを願っているということが分かります。だからこそ、変化に戸惑うのではなく変化を楽しみ、次はどんな事が味わえるのか、、、。というように生きることが大切なことだと思います。

今年のスタートにあたって、どうせするなら勇んで喜んで楽しんでつとめたいと思います。そうじゃないと「もったいない」です。皆さんも今日の一日を大切にして、もったいないことのないように通って下さることを願っています。

教会ニュース２

元旦祭御供物御礼

本年の元旦祭をつとめるにあたり、各地より思いの籠もった御供物や御供金を届けて頂き、誠にありがとうございました。新年に思いを込めて御供をさせて頂きました。

婦人会創立110周年　日々の理御供　報告

12月には55,550円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせて頂きますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

すなお（立教１８３年１月号）

通　巻　No.714
発行所　天理教瀬戸路分教会
794-0007　今治市近見町4-5-10
☎　0898-23-5004
FAX　0898-23-5123
発 行 日　2020.1.16
責任者　二 宮 英 治

「蚊の羽音」

深谷善太郎著【だけど有難い】から

～前略～　それから「蚊やノミがいなくなるだろう」という予測もありました。当時は、それだけ数が多くて、いなくなれば快適だと思ったのでしょう。現在は、いなくなったわけではありませんが、確かに少なくなりました。特に年配の方で、子供のころより蚊が少なくなったと感じている人は多いのではないでしょうか。ブーンブーンという、あの嫌な羽音をあまり聞かなくなったと思うのです。

　ところが、その理由は単に蚊が減ったからだけではないようです。あのイライラする音は、実は若いうちしか聞こえないそうです。蚊の羽音の高い周波数は、歳を取ると聞こえないらしいのです。つまり、蚊がいなくなったのではなく、耳が遠くなったのです。

　私もその一人です。蚊の羽音だけではありません。最近、階下で目覚まし時計が鳴っていても気づかないので、よく妻に「あの音が聞こえないの」と呆れられます。

　しかし、日常生活に支障はないのです。蚊の羽音が聞こえにくくても、一階で鳴っている目覚ましが二階にいて聞こえなくても、別になんともないのです。これは病気ではありません。老化なのです。誰でも歳を取れば、こんなといっぱいあります。耳が聞こえにくい、物が見にくい、食べにくい、歩きにくい・・・・。

　ともすると、こうしたことは不足の種になりがちです。そうではなくて、「聞こえにくいけど聞こえていて結構やな」というのが信仰の値打ちです。「見にくいけど見えているのが結構やな」「歩けてるのが結構やな」そこで感謝するか、不足するかで大きな差が出てくるのです。

　世の中には、「見にくいけれども、見えて結構やな」「聞こえにくいけれども、聞こえて有難いな」と言っている人より、「困ったなあ、見にくいなあ、聞こえにくいな、歩きにくいなあ」と不足している人の方が多いのです。心の持ち方一つで陽気ぐらしは味わえると、教祖は教えてくださいました。蚊の羽音が聞こえにくくなっても結構。目覚まし時計が聞こえにくくなっても結構。それより、聞こえる喜びを心に持って、勇んでご恩報じの道を通らせていただきましょう。

教会ニュース１

初席、修養科終了

先月19日に曽我部茜さんが初席を運ばれました。また、修養科942期生としてつとめられていた菊川忠成さんが先月27日に修了され、大教会での修了奉告祭では祭主として祭文を奏上されました。（修了の感想文別記掲載）そして、共に教養掛としてつとめていた会長も無事に終えて28日に教会へ戻りました。

新年の誓い

鈴代

自分が健康で、何不自由なく暮らしていると、病人のつらさや
不幸な人の気持ちなど、どうしてもわからないものです。
大きな病気をすると、病人を見ると自然にいたわりたくなり、
大きな苦労をした人は、苦労している人を見ると、なんとかして
あげれないかと考えます。

「苦労は買ってでもせよ」と昔の人はよく言いました。
最近は遊ぶことや、楽をすることを考える人が多くなりました。
少しでも幸せになると、もっと幸せになりたいと願います。
そんな時は、感謝もなければ喜びもありません。
幸せは後からついてくるものです。病み、苦しんでいる人のことを
神様に心からお願いする思いやりの心にこそ本当の喜びがわいてきます。

「わが身のこと思うたら先暗うなるみちや
人様のこと思うたら先明るうなる道や」教祖のお言葉です。
年のせいにして日々遅れがちになる自分の心を深く反省しています。
今日という大切な一日を、心弾ませ明るい一日を重ねたいです。
感謝、お礼の一年でありたいと年の初めに誓いました。

「修養科は楽しい所」

菊川忠成

　会長さんから「修養科に行きませんか？」電話を頂き、４～５日悩みました。そして「家族に今月から修養科に行って留守にするけどええかな」と聞いたら「いいよ」と言ってくれたので決心をして会長さんに電話しました。

　修養科が始まってしばらくは（みんな、こんな所でよく頑張るなあ）と思っていましたが、何日か過ぎてクラスの雰囲気が分かってきたら、ちょっと慣れてきてだんだん楽しくなってきました。そうすると授業もひのきしんも楽しくて月次祭で授業が休みの日は早くクラスの皆に会いたくなったほどです。

　今、思えば一ヶ月目は長く感じて大変でしたが、二ヶ月目は早く終わったような気がします。そして、二ヶ月目から鳴り物の授業で笛を練習しましたが、なかなか思うように鳴りませんでした。それで修養科から帰ったら詰所で毎日笛を吹いていたら、ちょとと上手くなってきて会長さんから「今日は良く鳴っていましたね」と言ってもらうこともありました。

　三ヶ月目はあっという間に過ぎたような気がします。笛もよくなってきましたので、もうちょっと頑張っていつか教会に帰ってつとめさせてもらおうと思っています。その時はよろしくお願いします。修養科は楽しい所でした。